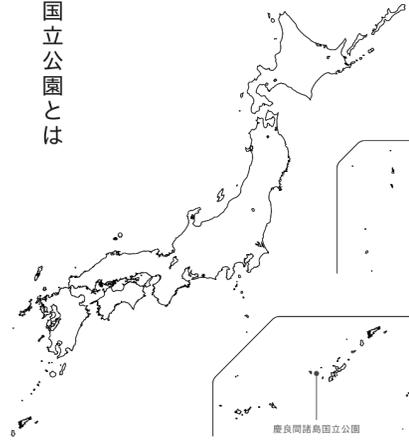


# 慶良間諸島 国立公園

National  
Parks  
of Japan



国立公園とは



国立公園は、日本を代表する自然の風景地として、自然公園法に基づいて国が指定するものです。北は北海道から南は沖縄、小笠原諸島まで34の国立公園が指定されており、年間3億人以上が利用しています。国立公園内は、自然の絶景だけではなく、野生の動植物、歴史文化などの魅力の宝庫です。日本の国立公園は、森林、農地、集落など多様な環境が含まれていることが特長です。ほとんど手つかずの自然が残されているところがある一方で、自然と人の暮らしが織りなす地域の歴史や文化にふれることができます。是非、実際に国立公園を訪れ、四季折々に変化する日本の美しい自然を満喫してください。

特長



美ら海慶良間  
海と島がつくるケラマブルーの世界

慶良間諸島は、沖縄県那覇市の西方約40kmの地点に位置する、大小30余りの島々と数多くの岩礁からなる島しょ群で、平成26年3月5日(サンゴの日)に31番目の国立公園として指定されました。透明度の高い海域景観、多様なサンゴが高密度に生息するサンゴ礁、ザトウクジラの繁殖海域、多島海景観、白い砂浜、海食崖とそこに発達した風衝地特有の植生など、海と陸が連続した多様な景観を有し、陸域が3,520ha、海域は90,475haと公園区域の大半が海域となっている国立公園です。沖縄本島(那覇市泊港)から高速船で約35~50分とアクセスが良好で、ケラマブルーと称される美しい海でのダイビングやシュノーケリング、冬にはホエールウォッチングを楽しむことができます。

【指定年月日】平成26年3月5日 【面積】3,520ha(陸域)  
【関係都道府県】沖縄県 90,475ha(海域)



地形  
地質



— 地形 —

慶良間諸島はもともと沖縄本島北部と連なる山脈の一部でしたが、地殻変動によって陸地が沈降して、現在のよう小さな島々の集まりになったと考えられています。そのため、慶良間諸島の内海は、沈降海岸地形を示し、多島海景観を有しています。山地が海岸まで押し迫って、切り立った海食崖や湾入りの多いリアス海岸を有しています。外海側では、海食地形が発達し、100~200mに達する海食断崖を形成する場所もあります。

— 地質 —

慶良間諸島の地質は、中生代の国頭累帯に属し、結晶片岩類、千枚岩、砂岩などを基盤としています。内海に面する海岸では、サンゴのかけらやホシズナと呼ばれる有孔虫の遺骸などでできた遠浅の白い砂浜が広がります。



チン根展望台



高月山展望台

— 渡嘉敷島

慶良間諸島最大の島で、南北に細長く広がり、全体になだらかな丘陵地形となっています。島の最高峰は227.3mの赤間山です。阿波連岬周辺では、砂岩から成る断崖があり、風衝地特有の植生が発達し、雄大な景観を作り出しています。

— 座間味島

東西に長く、天然の良港といえる入り江が島の随所に見られます。北海岸の大部分は断崖となっていて、島の南側は穏やかな斜面となっています。

— 阿嘉島・慶留間島

阿嘉島は、座間味村の中央部に位置する、ほぼひし形の島です。島の大部分が急峻な斜面になっています。慶留間島は、ほぼ四角形の島で、島全体が山地地形となっています。



見花原遊歩道



慶留間島

取り組み



近年、オニヒトデの大発生やサンゴの白化、ダイビング、シュノーケリング時のフィンキックなどによるサンゴへの影響が懸念されています。渡嘉敷村と座間味村では、「慶良間地域エコツーリズム推進全体構想」を策定し、適正な利用を推進するとともに、サンゴ礁の保全活動などの取り組みを推進しています。各島のダイビング協会などでは、サンゴの持続可能な利用を目的として、自主的にオニヒトデの駆除やモニタリングなどの活動が行われています。座間味村ホエールウォッチング協会では、大切な自然資源である鯨類の行動を妨げず、ザトウクジラの繁殖海域を保護することを目的として独自にホエールウォッチングのための自主ルールを策定しています。



オニヒトデ駆除の様子



ホエールウォッチング

## 連絡先一覧

沖縄奄美自然環境事務所  
〒900-0022 沖縄県那覇市樋川1-15-15  
那覇第一地方合同庁舎1階  
| TEL | 098-836-6400 | FAX | 098-836-6401  
| URL | <http://kyushu.env.go.jp/naha/>

慶良間自然保護官事務所  
座間味事務室  
〒901-3402 沖縄県島尻郡座間味村座間味109  
座間味村役場2階  
| TEL | 098-987-2662 | FAX | 098-987-2663

渡嘉敷事務室  
〒901-3501 沖縄県島尻郡渡嘉敷村渡嘉敷183  
渡嘉敷村役場2階

慶良間諸島国立公園サイト  
<http://www.env.go.jp/park/kerama/index.html>



発行所：環境省  
環境省  
発行年：2018年

※ 見どころ案内マップは、指定区域の概要を示すために作成したものであり、誤差があることを考慮した上でご利用ください。

動物

植物

生態系



— 陸域植物 —

慶良間諸島は亜熱帯海洋性気候帯に位置し、国内でも特異な生態系を有している地域です。ピロウ林、リュウキュウマツ林などが発達しており、620種以上の自生植物が生育し、樹種は46種と多様性に富んだ森林が特徴です。冬の季節風の影響が大きく、森林は全体的に樹高が低く、矮小化した風衝地に特有の植生が見られます。

— 陸域動物 —

ケラマジカは九州に生息するニホンジカと比べて体が小さく、頭や角も小さなシカです。ケラマジカとその生息地(屋嘉比島、慶留間島)は国の天然記念物として指定されています。また、リュウキュウヤマガメ、ホルストガエル、ケラマトカゲモドキ、イボイモリなどの絶滅が危惧される種をはじめとして多様な生きものたちが生息しています。カラスバトなどの希少な鳥類の生息地である屋嘉比島やアジサン類の集団繁殖地となっている慶伊瀬島(チービシ)などが、県指定の鳥獣保護区に指定されています。



見花原遊歩道



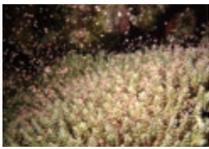
ケラマジカ

— 海域 —

慶良間諸島の周辺海域は透明度が高く、高密度にサンゴ礁が発達し、日本有数の美しい海域景観を有しています。平成17年にラムサール条約湿地として登録されています。慶良間諸島の海域では、テーブル状、枝状、角状、塊状などのさまざまな形状の造礁サンゴが高密度に広がっています。サンゴ礁の総面積は約66.4haで、248種のサンゴが確認されており、日本で確認される造礁サンゴ種数の約62%が生息していることとなります。慶良間諸島周辺海域のサンゴは沖縄本島へのサンゴの供給源としても重要です。6月頃にサンゴの産卵が観察され、一部の沖合に流れ出て生き残ったサンゴの



アジサン類



サンゴの産卵



スキューバダイビング

幼生は、沖縄本島の西海岸に流れ着き、海底に着生します。サンゴは、立体的に複雑な構造をしていることから、多くの生きものたちの生息場所として利用されています。慶良間諸島のサンゴ礁には、スズメダイ類やチョウチョウウオ類、ベラ類などの色彩豊かな魚類が数多く生息しています。慶良間諸島の海では、アオウミガメやタイマイなどのウミガメを見ることができます。夏には砂浜に上陸して産卵します。慶良間諸島周辺海域はザトウクジラの繁殖域となっています。毎年12月~4月にかけて、ザトウクジラを頻りに観察することができます。



慶良間周辺海域のサンゴ礁



アオウミガメ



ザトウクジラ

文化  
歴史



— 文化 —

慶良間諸島には御嶽、貝塚、史跡、重要文化財などが数多くあります。各集落には拝所があり、旧暦の8月20日に行われる海神祭や、浜下りなどの年中行事では漁業繁栄や航海安全が祈願されるなど、海と人々の生活が深くかかわっています。区民総出で稲わらで網をない、それをさらに縫いあわせて大綱を作り、綱引きをして豊作を祈願する「大綱曳き」など、古くからの行事・習わしが残っています。慶良間諸島は、かつて沖縄本島から中国への唐船貿易の中継地でした。慶留間島の高良家住宅は、清への公用船の船頭職を勤めた人物が19世紀に建築したとされる建物で、国の重要文化財に指定されています。

— 歴史 —

慶良間諸島は沖縄戦において米軍が最初に上陸した土地であり、戦跡もあります。戦後米軍のミサイル基地となっていた土地は、沖縄の本土復帰とあわせて返還され、平和利用のシンボルとして国立沖縄青少年交流の家が設立されました。



座間味村の海神祭



渡嘉敷村の大綱曳き

## 国立公園の利用上のマナー

多くの方に楽しく利用していただくために、国立公園内では自然を大切にすることを心がけ、次のことを守ってください。

- ゴミを捨てないでください
- 花や植物を採らないでください
- 野生動物に餌を与えないでください
- 熱帯魚やサンゴなどの動物を獲らないでください
- 歩行中禁煙
- たき火は指定の場所で行いましょう
- サンゴを傷つけないように気を付けましょう
- 外来生物を持ち込まないで下さい
- 海岸付近で遊ぶ際は潮の干満時刻、潮位などの情報を確認してください
- 日差しが強いで帽子や飲み物を忘れないようにしましょう
- 御嶽や拝所は地元の方の信仰の場なので配慮しましょう
- ハブやカサゴなどの毒をもった生物もいます

01 北浜ビーチ (阿嘉島)

B3



直線的な白い砂浜にケラマブルーのグラデーションが広がるビーチです。



北浜テラス

B3

海水浴で利用できる琉球石灰岩貼りの休憩スペースや目の前の海をのんびりと眺めながら過ごせるリトリート空間を備えた展望テラスです。フリーWi-Fi完備。

02 古座間味ビーチ (座間味島)

B2



比較的水深があるため、波打ち際から程近いところで大きなサンゴに群れる熱帯魚を観察できます。ミシュラングリーンガイドで2つ星を獲得したビーチです。

03 阿波連ビーチ (渡嘉敷島)

B3



渡嘉敷島の南西に位置し、湾状の長い長い砂浜があるビーチ。阿波連集落に隣接しており、食事、宿泊、海のアクティビティなどが充実しています。

Activity ダイビング・シーカヤック

ダイビング・シュノーケリング



透き通ったケラマブルーの海や遠浅に広がるサンゴ礁とそこに棲むさまざまな生きものを間近で楽しむことができます。

シーカヤック



透明度の高い海では、水面を近く感じることができ、ウミガメなどさまざまな生きものに出会うことができます。

島巡り

展望台巡り



稲崎展望台 阿波連(あはれん)岬園地の展望台

慶良間諸島の島々には各所に展望台が設置されています。展望台からは、多島海景観や海食崖、風衝植生などの特徴的な景観を一望できます。冬場はホエールウォッチングの観察ポイントになっている展望台もあります。

遊歩道



見花原遊歩道

島々に整備された遊歩道では、慶良間諸島の特徴である風衝地特有の植生やオオゴマダラなどの生きもの、海食地形の断崖などの雄大な景観を楽しむことができます。

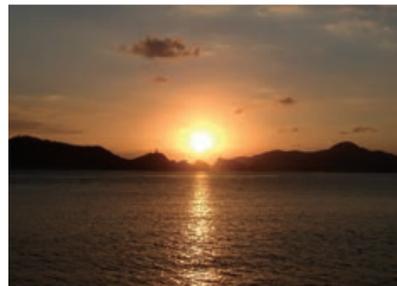
夏には、アカショウビンなどの渡り鳥が、春先にはケラマツツジなど、季節ごとにさまざまな生きものたちと出会うことができます。

集落



石灰岩の石垣が残る家やサンゴの石垣が続く路地、いたるところにある拝所など、沖縄の離島の暮らしを感じることができます。

夕陽と星空



水平線に沈んでいく夕陽、満点の星空は離島ならではの美しさです。渡嘉敷島にある国立沖縄青少年交流の家の東展望台からは、沖縄本島の夜景も楽しめます。

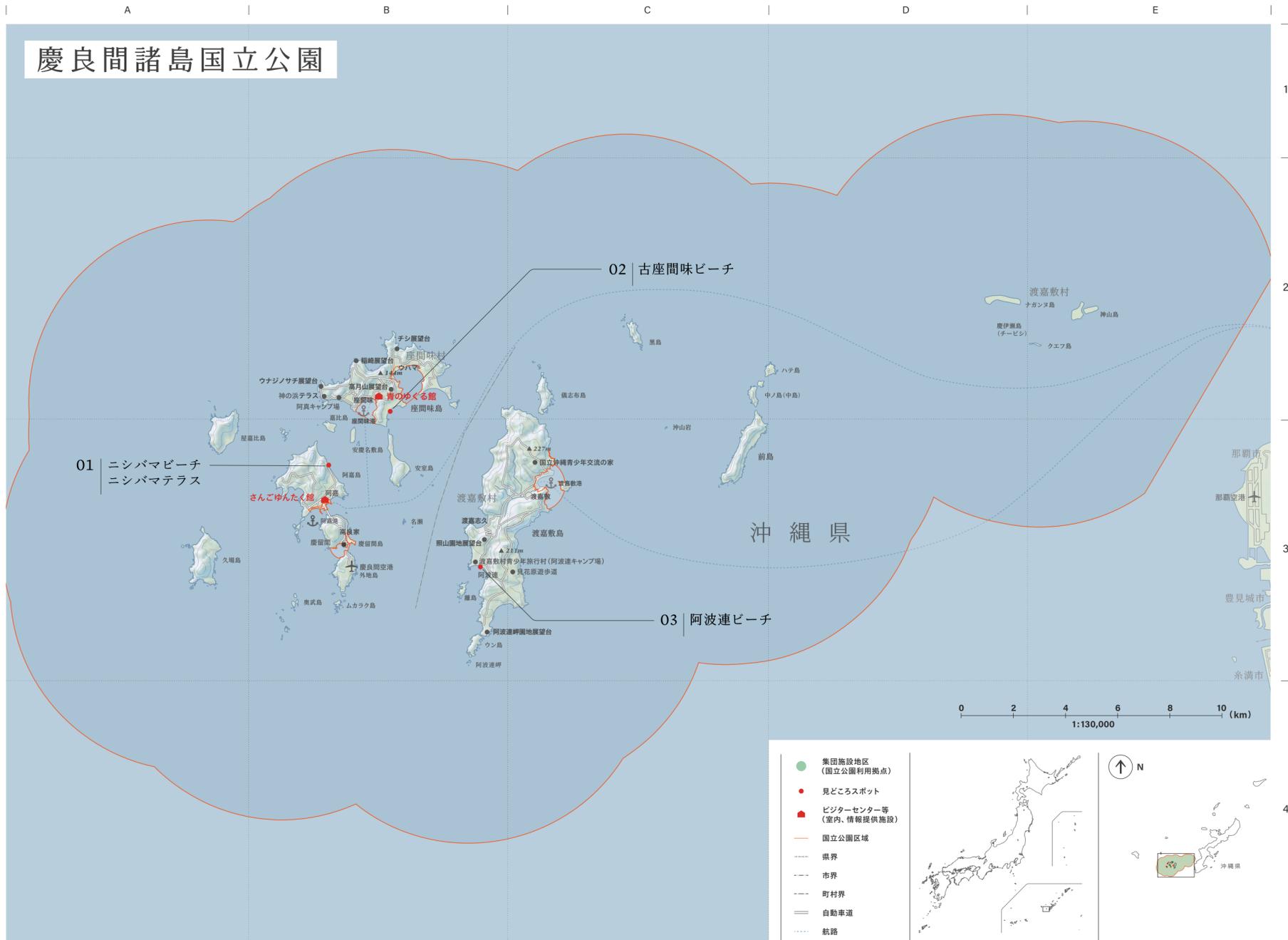


神の浜テラス

B2

座間味島最西端の断崖上にあり周囲にささぎる物が何もないため、大小多数の島々とケラマブルーの美しい海やサンゴ礁の雄大な景観を楽しめます。夕陽や星空観賞にも最適。フリーWi-Fi完備。

慶良間諸島国立公園



※詳細な区域確認等に当たっては、担当の環境省自然保護官事務所等にお問い合わせください。

Activity ホエールウォッチング



毎年12月から4月にかけて、ザトウクジラが繁殖の為に慶良間諸島周辺海域に訪れます。そのため、ホエールウォッチングが盛んに行われており、船からクジラの噴気や尾びれなどを観察することができます。ほか、稲崎などの展望台もホエールウォッチングポイントとして利用されています。

Information 施設案内

**国立沖縄青少年交流の家** C3  
昭和47年5月、沖縄の本土復帰を記念して設置された施設です。宿泊棟や研修棟、スポーツ施設などが整備され、シュノーケリングやシーカヤックなどの海洋アクティビティをはじめ、天体観測や植物観察などの自然体験プログラムが充実しています。

**高良家** B3  
高良家は国の重要文化財に指定されています。船頭小屋と呼ばれる旧家で、沖縄民家の原型を留めた昔ながらの建物です。19世紀後半に建築されたといわれています。

**青のゆくる館** B2  
座間味集落入口にあり、慶良間諸島国立公園および座間味島の魅力を掘り解いてく展示を楽しめます。観光案内窓口やカフェ、お土産販売、休憩スペースなどがあり、ゆったりと過ごせます。

※開館時間などについて詳しくは各施設にお問い合わせください。

**さんごゆんたく館** B3  
平成30年3月5日にオープンした慶良間諸島国立公園の自然環境をサンゴを中心に解説する施設です。「ゆんたく」とは沖縄の方言で「おしゃべり」の意味で、施設内の休憩スペースや施設前の四阿でゆっくりとゆんたくできます。

**阿真野営場 (阿真ビーチキャンプ場)** B2  
阿真ビーチに隣接してキャンプ場、炊事棟、シャワー、トイレなどが整備されているほか、近隣にはコテージも整備されています。

**渡嘉敷村青少年旅行村 (阿波連キャンプ場)** B3  
阿波連ビーチに隣接してキャンプ場、オートキャンプ場、炊事棟、シャワー、トイレなどが整備されています。また、近隣には阿波連ビーチを一望できる展望台も整備されています。

Access 交通アクセス

羽田空港		飛行機 約150分	
那覇空港		タクシー 約20分	
那覇泊港			
高速船 約35分	フェリー 約70分	高速船 約50分	フェリー 約120分
		高速船 約50分	フェリー 約90分
渡嘉敷港	座間味港	阿嘉港	

※アクセスルートは一例です。各区間の所要時間は目安です。詳しくは各交通機関の窓口・ホームページなどでご確認ください。  
高速船、フェリーについて  
渡嘉敷村 <http://www.vill.tokashiki.okinawa.jp/>  
座間味村 <http://www.vill.zamami.okinawa.jp/>